

地下水の守り人の浅野正子さん（黒部市 丸田工業株式会社）は、地下 222mから湧き出る地下水を「宝石の水」として管理・販売しています。その品質は、2021年にモンドセレクション優秀品質金賞を受賞しており、折り紙付きです。

取水地では、水深の異なる3種類の地下水を飲み比べることもでき、県内外からファンが訪れる人気スポットとなっています。



丸田工業株式会社

母 としこ 地下水の守り人

丸田 敏鼓さん 浅野 正子さん



Q. 「宝石の水」の特徴は？

A. 黒部川扇状地では、北アルプスの雪解け水を起源として地下水が豊富です。井戸掘り職人だった亡き父・信夫が、黒部の良い水を求めてこの地を選び、1998年に掘り当てて以来25年、地下222mの深さから毎分500リットルのお水が湧き出しています。これを「宝石の水」と名付けて、皆さんにご利用いただいております。

お水は、火山特有の磁鉄鉱系花崗岩の地層が天然のフィルターとなって長い年月をかけて濾過されており、その年月を調べてみたところ、数百年から2200年という結果が出ています。硬度は30度で、水質はpH7.5程度の弱アルカリ性。まろやかな口当たりが特徴で、お茶やコーヒーがおいしく感じられると好評です。

宝石の水を汲みに20年以上通い続ける大久保利恵さん(滑川市)。

「煮炊きには、このお水しか使いません。お客さんから『お茶がおいしい』とよくいわれます。毎日続けることが、健康の秘訣です」

Q. 「地下水の守り人」になったきっかけは？

A. 父は、チャレンジ精神が旺盛で、北陸新幹線を「空から眺める」といって、60歳を過ぎてからパラグライダーの免許を取得するほど。地下水を利用してワサビや果樹の育成も手がけ、熱心に栽培方法を研究していました。

その父が2015年に他界し、母と娘で「宝石の水」に関わる一切を受け継ぐことになりました。私が地下水に興味を持ち始めたのは、それからです。

「地下水の守り人」に登録したのも、講習会などを通じて立山の地質や水の化学的な性質について詳しく知ることができると思ったからです。時には、雪氷学の学会にも足を運ぶこともあります。どんな分野でも興味持ち勉強を続けたいです。

都市部では、地下水が肥料や農薬によって汚染されているという報告もあります。父が遺した名水がずっと美しいままでいられるように守り続けることが私たちの使命と感じています。



敷地内で、ワサビを栽培。

地下水飲み比べ体験は、無料。
黒部市金屋字拾石割 1500
容器で持ち帰る場合は、利用料が必要。

富山県公式HP/清水の里から
ご覧いただくことができます。

【地下水の守り人】地域に根差した地下水保全活動を促進するため
平成24年度より養成・登録を開始。現在143人が登録されています。

